

秋の旅行会「マッサンのふるさと余市、紅葉のニセコを巡る旅」

10月22日（土）に本年度の秋の旅行会「マッサンのふるさと余市、紅葉のニセコを巡る旅」を実施しました。あいにくの雨模様で、参加者も会員、ご家族含めて12名と少人数でしたが、初参加の方もいらして、奥様方と子供さんを交え、楽しい1日を過ごすことができました。

朝8時に札幌駅に集合。貸切バスで朝里から赤井川経由で一路ニセコをめざし、途中新幹線のトンネル工事が始まった区間を通過し、すっかり雪景色となった蝦夷富士・羊蹄山を眺めつつ、10時過ぎにニセコ・有島記念館に到着しました。この地で戦前小作人への農場の無償解放を行った文人・有島武郎の生涯をビデオで視聴、往時に想いを馳せると共に雄大なニセコの自然の中でしばし休憩の後、昼食会場であるヒルトンニセコビレッジに向かいました。

昼食会では、恒例の参加メンバー自己紹介が行われ、ホテルのランチで懇親を深めました。途中、海外からの観光客が多く滞在するコンドミニウムを横目に眺め、すっかり様変わりしたニセコ・比羅夫地区を通過し、倶知安駅に到着、14:10発の小樽行に乗って1時間弱ほど余市までお決まりのローカル列車の旅を楽しみました。

余市では、まず駅前の商店で今晚のおかずやつまみを購入、予約の時間にニッカウキスキー余市蒸留所へ向かいました。NHK朝の連続ドラマ「マッサン」の放送以来、多くの観光者が訪れているようで、この日も外国人を含む大勢で、ガイド嬢に案内され工場見学、ウイスキーの蒸留を学び、またマッサンとエリーの在りし日をしのびつつ、最後に試飲コーナーで出来たて？のウイスキーを味わいました。併設されている売店で限定のウイスキーをしっかりと買い込んで、すっかり暗くなった余市を後に家路につきました。

ニセコを愛した有島武郎や余市でウイスキーづくりに情熱を燃やした竹鶴政孝、リタ夫妻、晩秋のヤマ線（函館線長万部・小樽間の俗称）をローカル列車で揺られながら、それぞれの思いに浸りつつ、会員・家族の懇親を深める良い一日を過ごすことができました。

ご参加いただいた会員、ご家族の皆様に感謝します。 （文責・小山）

